



觀鷲百潭卷之三

第三十六 名山道觀佛寺題名

唐土名詩人文士名取に在歴し其志辭
 題名より本には道觀佛寺等其辭
 詩に題する事名をふ人乃作し其後
 を以て記す事あり和朝あり事
 や或人云す如法欲を刻し人より
 あり事あり事あり事あり事あり
 如慎唐土北地記志に事あり事あり
 甚多し朱岷養先生如題名に事あり



雅の士は... 唐の開元二十三年より。後唐の清寧二年まで。二百五十四年。其教を百人ありて。再述世人二十二人。甚多と云ふ也。文事盛るる國の風かく好む事ありて。見ざる。

忠貞勇直... 兎也の池より水に... 道あり... 牛馬... 事... 水に映... 草花... 鳥... 屋... 所...

三人...
三二

兎也の池より水に... 道あり... 牛馬... 事... 水に映... 草花... 鳥... 屋... 所...

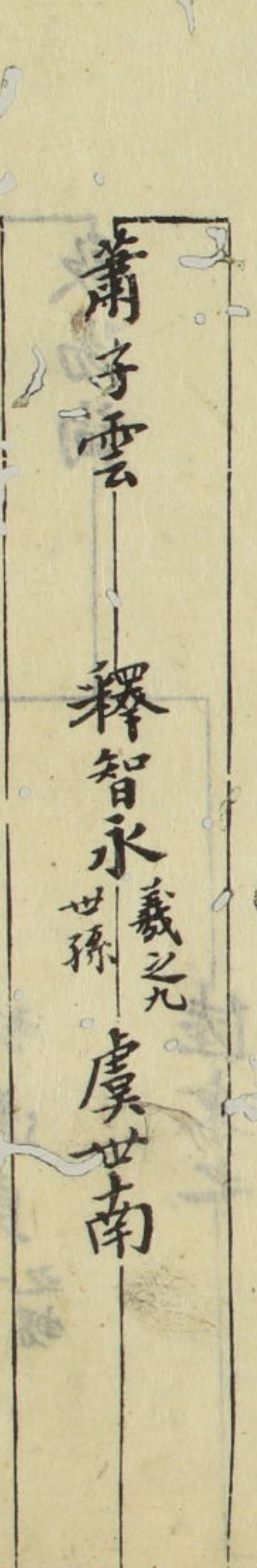
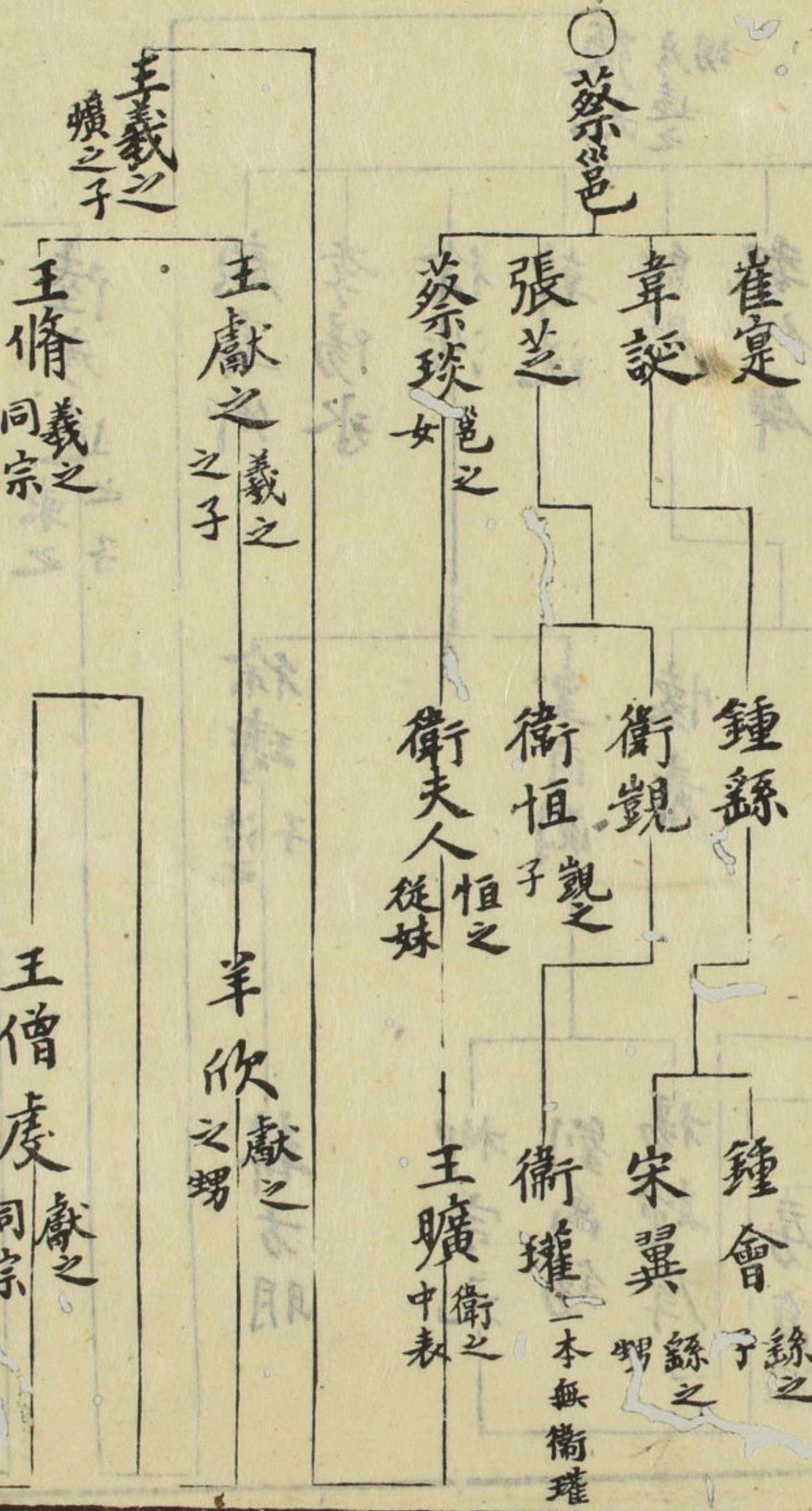
新晴^{ニハ}若^ニ空^ニ開^ル見^ル出^テ河^ヲ成^シ時^ニ回^ル殷^ニ勤^ニ好^ム去^リ武^ノ陵^ニ
 客^ヲ莫^ク引^キ世^ヲ人^ヲ相^ニ逐^ス東^ノ里^ニ石^ノ氏^ノ孫^ノ亭^ノ山^ノ氏^ノ廣^ノ澤^ノ細^ノ氏^ノ
 壬寅^ノ四^ノ月^ノ二^ノ日^ノ東^ノ里^ノ石^ノ氏^ノ孫^ノ亭^ノ山^ノ氏^ノ廣^ノ澤^ノ細^ノ氏^ノ
 同^ニ遊^ス礼^ノ作^ル方^ノ連^ノ久^ク一^ニ切^リ社^ノを^シ務^メあり^ト一^ニ刻^ス
 人^ノを^シ概^シて^シ消^スせん^ト幸^ニなる^ニ平^ニ赤^ノ人^ノの^ノ像^ヲ由^リ乃^ニ
 中^ニあ^リる^ニた^つつ^ニに^ニ四^ノ尺^ノを^シり^りあ^リて^シ四^ノ方^ノ皆^ニ田^ノ也^{ナリ}
 本^ノ像^ヲ今^ニ以^テ埃^ノ珠^ノ山^ノ注^ス光^ノ青^ノ赤^ノ有^ル物^ヲり^テ之^ノ相^ヲみ^ル
 堂^ノ内^ニ於^テ隅^ニみ^る産^ノあり^ク瓦^ノ跡^ノ點^ノも^あり^し前^ノみ^る小^ノ
 土^ノ器^ノに^もあり^し灰^ノあり^し像^ノを^シ陶^ノ匠^ノ手^ノと^シて^シえ^ん
 古^ク菱^ノ手^ノ折^レる^ニ袖^ノも^あり^し仍^ニの^ノ云^フ乃^ニ好^ム也^{ナリ}

小^ノ詩^ノ有^ル頗^ニ一^ニ言^ヲれ^ル也^{ナリ}古^ノ人^ノ之^ノ風^ノ
 或^レ云^フ赤^ノ人^ノの^ノ墓^ノ在^ル大^ノ和^ノ國^ノ山^ノ於^テ造^ルと^シり^し取^ルみ^る
 有^ル水^ノ府^ノ如^シ史^ノを^シ赤^ノ人^ノの^ノ傳^ノみ^る一^ニ載^ス
 此^ノ人^ノ未^ダ定^ム也^{ナリ}法^ノ印^ノ季^ノ分^ノ六^ノ代^ノ集^ノの^ノ抄^ノみ^る
 上^ノ徳^ノ園^ノと^シる^ニ也^{ナリ}後^ノ水^ノ府^ノの^ノ史^ノを^シ足^ノ持^ルに^ニ墓^ノ
 及^テ傳^ノの^ノ事^ノハ^ニ傳^ル也^{ナリ}

第三十七 書學傳授鄭解不^レ同
 元^ノ於^テ鄭^ノ柏^ノの^ノ新^ノ註^ノ書^ノ法^ノ傳^ノ流^ノの^ノ圖^ノあり^し明^ノ如^シ解^ス

僧の書學傳授的文章あり。其自筆の業を
 以て。志水の王佐筆記の言。蔡
 邕より宋克字仲温子勳より。或は。鍾或終久
 身も宋克の弟子なり。王佐不没。自嘆息
 して書文多し。いふ。已に任じ。勳も有
 する。は。其文を多し。試に。以て。行極
 書法傳流之圖。

元鄭柏字子經莆田人。能大書。兼工小字。



歐陽詢

褚遂良 世南之甥

陸柬之

陸彥遠 東之子

顏真卿

徐璿 浩之子

韓方明

李陽冰

徐浩

韓滉

皇甫闕

柳宗元

張旭 彥遠之甥

鄔彤

懷素

劉禹錫

魏仲屏

房直溫

韋玩

柳公權

劉墀

崔邈

褚長文

楊鐸

權審

張叢

崔弘裕 禹錫外孫

盧潛

盧穎

崔紆

蔡襄

右圖自蔡邕至崔紆皆親相授受惟蔡襄毅然獨起可謂間世豪傑之士其他歐陽詢蘇軾黃庭堅米芾趙子昂俱宋元名家

而莫詳其自云。

格古要論

書法傳授

明解學士信字本紳。

○蔡邕

崔瑗

韋誕

蔡琰

鍾繇

庚翼

衛夫人

鍾會

王羲之

謝朓

祁超

王獻之

羊欣

王僧虔

蕭子雲

僧智永

虞世南

歐陽詢

褚遂良

薛稷

陸柬之

陸彦遠

李邕

賀知章

張旭

顏真卿

李白

柳公權

僧懷素

鄔彤

崔邈

張從申

韓熙載

徐鉉

○段凝式

宋興

○李建中

○蘇軾

○黃庭堅

○米芾

米元暉

○蔡襄

王庭均

元

王澹

張天錫

鮮于樞

○揭傒斯

揭浣

揭樞

○張即之

○趙孟頫

平子山

饒介

楊仲弘

范文白

明

趙仲穆

俞和

宋仲珩

杜環

詹希原

宋克

胡布

或云宋克胡布同受紹興老僧

六鄭柏也解縉也相違甚也世以鄭柏於國畫
內閣字府乃首也載之印於一弄物人亦以
之八中一也解縉於文章八漢人多於一也

す。唐土唐文流文士のことも、
くに傳へつた。たゞ、
又、
し。
形、
傳、
也。

第三十八 歐公日存力歎末句

歐陽文忠公永叔。其日本力の歎末の句に、
世多又識古文と云。げ、
人古文、
也、
見、
法、
字、
都、
人、

佛処子等と稱す。古蹟のたる類の。博宏の
君の是。凡そふくし。川原の。強て。權者の
事。ふれ。俗人。批評。を。し。し。教
さむ。を。つ。い。福。を。さ。す。

蓋田池の碑乃
真迹。後彼の
圓。と。云。云。
摸。し。つ。り。
是。也。試。小。連。續
と。云。云。大。師。傳。由
大。師。石。刻。碑。子
碑。文。束。子。と。云。
後。横。放。置。り。
大。字。あり。松。石。
石。刻。刻。す。人。の。母。考。ら。字。傳。ハ。あ。り。た。故。あり。て。刻。本。を。軸。本。書。り。の。の。り。

大師の書法の妙。唐の書法。づきに稱賛し
て。中。人。法。見。お。れ。た。ま。志。に。渡。唐。を
て。帰。朝。し。帝。に。傳。へ。し。新。名。飛。白。の
書。法。を。り。し。唐。の。大。子。の。御。書。身。
ふ。白。の。り。し。宗。朝。丁。也。大。子。を。此。體。を。遊
り。し。也。和。朝。も。此。時。節。專。し。唐。を

看眼の人ハ又之知摩。大師再生。終。う。か。さ。ぬ。へ。一。碑。石。今。ハ。あ。り。古。の。九。十
八。段。也。記。也。

此。の。い。は。り。時。り。有。識。達。士。ハ。志。る。事。と。り。也

唐太宗。玄武門の宴あり時。飛白を遊びし。と。
孝。臣。に。賜。り。し。各。酒。丹。粟。と。り。争。ひ。し。之。を
取。り。し。散。給。常。侍。劉。洎。許。廣。と。り。て。帝。は
許。廣。に。も。せ。給。り。し。也。此。書。ハ。人。と。ま。は。し。り。也
也。昔。の。い。げ。も。帝。作。あり。し。り。ハ。昔。班。婕。妤。と。
帝。と。稱。す。曰。く。さ。り。申。以。辭。し。今。を。侍。侍。の。
我。底。の。の。が。事。と。し。也。此。ハ。い。は。り。也。今。を。侍。侍。の。
も。た。り。し。り。也。又。飛。白。の。り。し。馬。國。の
賜。り。し。事。也。言。宗。の。飛。白。を。書。し。り。し。

戴玉油。都虞俊。李敬元。崔知悻に賜りし書
あり。

宋於仁宗飛白書神妙なるあり。飛白書
を。點畫は物より。かどどりて。形をわらう。點
を巧み。かどり。本唐卿。飛白。點。三百種
を撰て。進我。自奏して云。物の象を。柳光書
し。侍り。帝感。かどり。因て。又清淨。好。二
字。書て。おれ。なり。其。片。於。六。點。も。川。も。奇。後
め。か。の。三百。於。か。わ。し。と。也。
知悻云。飛白。象。類。り。事。も。い。あ。わ。此。清淨

飛白。象。類。り。事。も。い。あ。わ。此。清淨
旁と之点みつらさ。と。も。と。也。邊。世。不。棄
又。草。象。ら。じ。う。ふ。の。あ。も。さ。く。有
ふ。ま。し。う。ら。わ。事。と。明朝の先。好。事。も。い
る。と。

又嘉祿年中に。孝長。天。重。陶。か。え。し。て。
宴。あり。に。み。も。飛。白。書。を。作。り。た。り。ひ
左。右。洋。見。し。る。也。歐陽公。清。書。飛。白。好。序
を。作。り。王。禹。玉。跋。を。作。り。書。し。り。や。り。さ。り。
唐。玉。皮。し。と。事。有。歐陽公。に。物。わ。ぬ。

此時當飛白如序。并下清紙。能令一。恩。謝
一。書。於。陳。表。破。之。亦。曰。以。謝。一。奉。一。家
記。の。也。

か。る。に。唐。宋。の。天子。飛。白。以。清。書。や。あ
は。れ。ぬ。和。紙。光。に。あ。り。し。く。流。例。と。す。り。方
か。る。べ。し。や。

朝廷は清書を志しぬ。す。あ。の。を。唯。推。是。が
解。之。の。を。あ。は。れ。し。と。末。流。は。か。み。り
に。亦。常。乃。清。文。而。紙。也。鳥。飛。人。頭。等。の
點。は。必。之。被。裁。と。る。が。家。事。傳。授。は

あ。る。ま。わ。ふ。の。の。聲。を。と。る。

三十一

第三十九 明周王懷素屏風詩

懷素此書。考。り。屏。風。的。乃。時。ま。あ。る。也。
周憲王詩を題して云。何處一屏風。分明懷
素。蹤。雖。多。塵。色。深。猶。見。墨。痕。濃。恒。石。弄
秋。澗。寒。藤。挂。古。松。若。教。臨。水。畔。字。上。未
龍。也。味。多。見。り。や。り。如。美。作。り。自。叙。帖。千
字。文。林。興。八。首。乃。石。本。等。也。和。紙。に。傳
る。也。屏。風。之。本。書。を。と。り。足。中。に。し。る。の。也。

周憲王名有燉。周定王孫子。蘭雪齋也。
弼。又東書堂。弼也。在書堂。法帖也。
刻之也。知慎其清事の二大字と。歎也。
一て藏む。甚る雅を慕。

第四十 松雪菴頌 吳推讓

元祐延祐此時也。興聖宮を作らし。汝就一子
也。丞相李邦寧。太后有旨奉^{ウキ}。朝^{ウキ}。子
命也。頌を書志也。久とらけし。子即答也。

李雪菴 傳光也。書をさす也。其比禁廷の扁
額也。皆雪菴の也。稱追ありなり。因て
又奏聞を修く。雪菴に命をさす也。是
亦甚る。一けし。丞相と子即也。同道して。雪
菴の取らし。申之れ。雪菴も。稱讓をさす也。
けし。一けし。勅命といひ。丞相強^シ。雪菴
も。書さす也。古人推讓也。後人及び
か。一と。明朝也。噴士也。稱也。

釋傳光。字玄暉。弼。雪菴。俗姓李氏。大同
人。特封昭文館大學士。榮祿大夫。賜玄悟。

大師為詩冲澹粹美善真の草書尤工
大字元朝禁扁皆其所書 知慎方六
寸於字乃刻於石凡一が顛筆一と云
たに於體有り 王元美云り溥光の南
路體有り之。南溥光事下に詳なり溥
光如趙公に及ぶ事をさして甚し。

第四十一 回道 人榴皮画詩屏
回先生榴皮を以東光回屏由書其詩あり

回先生何人といふ事は未だ知らず。東坡は是
を榴皮を以てし。是れ字は折く。大小二尺か
して他よりや。初て回賓の事を志しり
也。回賓名は崇。回賓と字有り。

知慎より。東光回屏を以てして四字
の信有りん也。

呂真人集。熙寧元年八月十九日。過湖州東
林沈山。用石榴皮画絶句於屏。自號回山
人。西舞。己言。慶不足。東光。維貧。樂
餘。白。酒。釀。味。佳。好。客。黃金。散。盡。為。收。書。

知慎者。曾故羽林。折澤氏に仕る時。宗師
於系人某。德齋如祀。一軸を羽林
進む。其人公ら。芳らわ家。傳へて。呂
洞窟於書也。其筆法奇怪。妙あり。
誰と唯。於手通。其名を。印支
也。有也。羽林古筆。性定。於人。あ。又。也
字。の。を。回。道人。其。何。人。と。し。ふ。と。は。は。あ。か。さ。を
い。い。傳。へ。き。も。も。呂。洞。窟。に。し。よ。さ。れ。世。間。に
價。減。と。し。し。ひ。く。切。と。て。傳。へ。し。知。慎。も。も。に
又。し。ら。也。後。某。糜。千。米。和。尚。を。請。ふ。時。



又。き。れ。れ。仙。筆。教。了。之。但。印。記。の。氣
を。從。一。が。し。と。申。さ。れ。り。凡。天。下。好。事。
何。事。も。も。後。世。の。人。を。用。ひ。べ。き。也。印
を。印。き。れ。れ。卷。尾。慣。り。て。甚。好。し。く
申。し。也。志。し。が。今。物。あり。や。い。も。如。情
心。ん。さ。の。の。也。

第四十二筆。仙賣筆。羅出園中。
む。高。士。あり。毎。夜。筆。を。掃。く。曉。夢。り。ぬ。
戸。を。し。て。竹。の。筒。に。筆。を。入。辭。乃。あ。よ。也。

買者水濱を角乃中に入るといふ事。福水。
柳入と云ふ。其人の心は能くする事。するは
角乃り。雖もいひけり。世に筆仙と云ふ。
唐土。亦も。亦も先好中。おごり。海に能く
いふ。漢と。

茅甲三。南路。惡漢。顔公。温。解。

趙其興。子昂。初。張即之。を。子。乃。り。
後。改。を。く。本。北。海。道。を。治。す。り。
の。上。乃。解。者。
の。文。め。後。改。を。く。本。北。海。道。を。治。す。り。

名。以。下。に。得。ら。北。海。を。能。く。治。す。り。自
雅。り。支。敏。子。昂。初。張。即。之。を。子。乃。り。
也。元。美。子。乃。り。知。性。好。り。即。之。を。子。乃。り。
子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。
之。に。子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。
明。の。初。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。
子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。
子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。
唐。土。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。
子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。子。乃。り。

その早くさうりしてゆく。東坡山石出る者能
此風盡くして。米元章父子其能。世にいり
て。世譽して奇物を学ばし。其聲七の方より大
み重なるつて。遂小張子。湖陰。張師之聽
誤き。いまもり。王克美。此より。大も。誤あり
と云ふ。

張師之の古字。米元章。米元章。泉涌。其
類。一字千金。今其約して。二千金。今と。其
字。ゆゑ。泉涌。と。其。書。て。城。其
と。傳。ふ。其。信。を。依。あり。て。本。書。と。其。其。物。

志く。花。じ。林。庵。を。た。う。事。あり。和。の
み。即。之。う。大。字。や。は。く。有。少。金。に。大。字。と。其
に。之。も。清。其。風。も。趨。其。系。師。其。万。其。其。其
根。え。り。其。堂。上。地。下。一。同。に。之。に。危。を。り。て
外。み。の。し。と。り。て。海。内。清。同。調。其。和。し。て
唐。土。其。正。風。其。心。を。つ。け。と。南。海。風。を。思。張
筋。脈。屈。折。生。紫。と。や。い。き。く。い。や。り。其。其。其
や。と。元。美。も。之。り。今。人。の。稱。譽。も。り。亦。の。程
賜。筆。ハ。之。に。其。其。其。俗。体。其。其。而。之。賜。筆。
二。家。の。惡。漢。を。師。と。り。て。其。を。之。其。其。其。

柳... 追事... 心付... 也

王元美云顏如書以... 柳書... 了不生... 之博... 粗醜... 在辱... 知... 多...

必大... 刑... 南路... 統... 必大... 刑... 南路... 統...

顏魯公 柳公權 東坡 山谷 米元章 米元暉 張子湖 李雪菴 張昂之 張南岳 陳白沙 馬一龍 元美又曰... 張遜業 楊珂 陳道復 羅鹿齡 方煥 張書紳 蘆洲 黃翰 張天駿 蕭文明 邵文敬

皆古中流。狂狷無法。師之。亦以。其。也。
又曰。解大紳。狂狷。一時。母。名。也。後。為。
多。法。又。多。惡。第。揚。用。惟。名。信。外。卷。目。下。法。
完。符。之。也。り。
キトウラダ

知。快。也。り。解。大。紳。好。之。奇。異。如。某。法。
を。作。り。て。書。ゆ。今。是。を。用。ひ。於。人。又。解。
一。多。ま。り。一。時。の。感。其。也。を。も。り。也。り。
之。也。り。書。中。各。も。り。也。り。書。中。各。

第四十四 和漢同稱字迹為手

書迹。故。手。と。以。事。和。漢。同。也。に。同。一。又。其。
手。小。出。も。あ。ら。に。文。を。毛。詩。を。も。り。小。事。を。魏。
司徒。韋。誕。也。張。伯。菜。の。弟子。也。魏。宮。館。
寶。器。皆。是。誕。手。梁。鶴。之。師。宣。長。の。弟子。也。
魏。武。重。之。帝。以。書。也。帳。中。宮。殿。以。異。多。是。
鶴。手。元。美。曰。魯。希。元。能。大。字。異。書。法。也。
願。訪。其。手。也。か。屋。に。い。あ。り。皆。字。迹。の。事。也。
希。元。又。希。原。也。也。知。元。也。也。也。也。也。也。

楷の考

源氏也。流俗草也。中をみるに、
文字亦事あり。和漢同稱と云ふ也。

知能多事の中に、字迹亦一
ゆかに、手ともいふ。字をなす也。畫をば
と、は、波筆といふ也。筆の、
書と畫と、二名のなり。いふ、書畫とも
は、筆の、いふ、書畫とも、貴字の、
迹とゆふ、書畫とも、貴字の、

第四十五 陳復君前書法端正

明の時、便殿、人々、知能、書法、所、
有、時、上、威、を、わ、く、汗、り、
字、を、成、事、を、わ、く、陳、復、字、性、
り、り、動、止、安、雅、也、書、法、端、正、
れ、を、希、悦、い、也、酒、然、
中、也。

人必動山安能... 唐土... 能書... 稱... 石... 威... 如...

第四十六 滕公墓銘叙孫通釋

漢將滕公嬰... 鳴... 東門... 馬... 鳴... 足... 地... 久... 可...

が... 石... 火... 照... 洗... 其... 佳... 三... 見... 日... 嗟... 居... 此... 室... 吾... 今...

佳城

全文身世... 景...

文字の束も出る。

第四十七師宣官空年入酒家

清江流希如時。師宣官の分字を能せり。
大字の經丈。小字の方寸。丹言をり。字を
自稱。里重ト。字の。時。空。年。月。日。酒。家。
到りて。先。其。壁。丹。大。字。を。書。け。り。だ。款。の
雪。持。し。く。に。集。り。て。酒。お。か。し。り。ぬ。主人。大
お。得。つ。ぬ。は。宣。官。の。事。に。酒。を。飲。能。

是れをいふ。りら鏡。減して。帰る。り。

表昂。宜友。書を。贖。し。て。賜。羽。末。意。翻。
自述。と。日。次。と。わ。未。代。の。能。書。の。最。上。也。

第四十八令狐岐公宮墮潤筆

ひ。令。狐。岐。公。宮。墮。潤。筆。
月。明。り。り。夜。主。上。直。學。士。を。推。え。を。
初。問。あ。り。字。の。も。志。少。く。と。言。次。即。岐。公。を。に
なく。宮。墮。を。の。領。中。孫。帶。或。國。扇。を。

拍を以て詩を求むるに。内侍牙牀を擧て
奉り。金相り水晶硯。珊瑚の筆格。玉象の
筆。法濟宗の所因のものをもて。公の前よ
るく。書志見し。筆をもと先以。海より
ゆく。海書して。玉求み奉り。より。やわをの
収よと。どし。所前よ。のらす。を。出
入る。ゆ。早。生に。潤。茶。せ。た。や。の。書。れ。
各。深。水。珠。華。一。葉。を。ぬ。く。公。の。懐。頭。上
み。き。して。あ。ふ。ら。の。ま。を。ぬ。く。公。の。胸。の。神。丹
中。に。押。入。て。針。線。を。の。ら。す。ま。く。神。丹。を。

合をす。い。神。丹。を。ぬ。く。公。の。胸。の。神。丹。
内侍。あ。原。して。合。蓋。幅。を。ぬ。く。杖。柄。して。
院。あ。送。り。降。り。お。ぬ。ぬ。る。又。す。み。より
て。石。を。ぬ。く。に。書。来。に。神。丹。を。ぬ。く。公。の。胸。の。神。丹。
や。わ。を。奏。して。云。酒。の。は。ま。り。ぬ。く。神。丹。
ま。か。り。玉。堂。に。ゆ。り。て。帯。ひ。こ。う。が。懐。頭。を
ぬ。て。面。前。あ。ま。く。神。を。抱。く。ゆ。り。て。睡。る。と。公
ぬ。公。花。を。人。好。ま。ん。か。い。は。ら。ひ。の。こ。つ。り
ま。の。ま。り。や。ま。く。な。ぬ。か。希。ち。あ。ぬ。り。を
ぬ。い。ぬ。り。と。あ。や。

潤筆身。訪文章。とて。人如。筆如。号き。りし。其乳帯を致し。故筆たり。

第百九 智永筆塚後賢多倣

唐杜智永。王羲之七世孫。吳興永欣寺住。志く。書を後て。書法。字。ハ。字。ハ。六。統。筆。院。十。幾。子。及。分。或。年。十八。竟。其。名。甚。高。かり。り。ハ。教。百人。入。成。り。て。書。ハ。覓。之。紙。額。を。法。名。市。の。一。と。く。う。り。し。ハ。戸。限。屋。ふ。り。て。穴。穿。り。て。圓。

漢系をもち。裏をわて。世人。是を。漢。門。限。名。つ。も。け。り。し。と。な。り。退。筆。塚。に。在。り。瘞。之。跡。で。退。筆。塚。と。り。自。浴。を。製。し。り。と。定。懐。素。長。沙。の。名。匠。と。す。好。書。を。好。み。り。月。草。書。之。味。と。稱。し。り。と。り。意。亦。筆。塚。と。り。て。穴。を。穿。り。し。即。ち。山。下。に。埋。む。筆。塚。と。稱。す。也。明。也。楊。黼。字。子。太。和。筆。塚。を。西。原。と。り。子。解。子。孫。も。又。先。考。子。孫。を。瘞。之。跡。を。作。り。し。也。未。安。定。字。士。澄。東。吉。之。子。也。り。也。古。書。家。也。工。也。り。其。平。生。所。書。字。跡。を。積。く。積。て。り。也。

名つぎく。家塚といふ。春坊坊子士吳均。家塚
記を世に傳ふ。又董惟才。朱廷海。家塚の清光に記さる。初
趙光遠といふ人。家塚といふ。知み遊ひ。足川溪
上。此の所に。唯字塚。一石。方碑。如。碑。中。類。
上。石。の。上。に。記。字。有。曰。院。友。退。
鋒。部。功。成。聲。威。霜。塚。頭。封。馬。鬣。不。敢。
負。思。光。也。其。後。歌。云。獨。流。貞。節。立。有。碑。
上。よ。苦。む。物。さ。び。び。り。是。事。此。の。む。ん。筆。
に。瘞。こ。り。家。を。り。古。人。の。筆。重。く。て。敗。れ。れ。
不。さ。り。り。瘞。り。や。今。此。人。の。墓。ま。ま。ま。く。

あや志むいふ。雅厚好へんくゆいふ。
お慎む。筆好思し。く。く。く。く。く。く。文字の
聖賢の道。を。裁。く。甲。海。の。法。を。え。ぐ。古。徳。の
事。を。遠。く。り。も。り。し。て。筆。を。し。り。り。勤。
多。く。況。や。筆。硯。の。能。を。心。く。言。料。も。登。り。
家。を。ま。り。人。を。ま。り。上。大。人。下。小。人。也。
日。に。月。に。や。し。事。も。り。上。つ。く。を。教。て。是。
を。瘞。む。上。の。方。の。を。の。と。筆。法。を。こ。の。心。
筆。の。の。の。事。多。く。と。筆。して。世。を。ま。り。ん。
多。く。ま。り。と。い。中。の。の。退。筆。の。物。も。ま。り。ん。

も曹操云釈とあり。出さる。とせしむるを
いふ。三千里をうりつり。印てきり
か。いさうし。黄絹を。久保を。絶の字
く。幼婦を。少女を。妙を。外孫を。女
の子を。た。好の字也。盡白を。年を。愛
るもの。を。辭好字。佳好辭。積
多。き。を。い。や。

を。い。び。の。字。謎の。お。を。字。西。字。を
ア。乃。び。一。可。の。真。め。る。事。に。絶。は。も。や
以。系。分。色。の。字。ハ。あ。と。辭。ハ。不。受。の

我。り。言。辭。の。辭。也。あ。と。水。に。任。史。本
才。傍。の。例。多。し。
義。之。小。楷。の。帶。城。研。ハ。名。物。と。し。甚。名。
世。に。傳。り。し。字。者。の。模。範。と。せ。り。

第五十一 衡山吟 穢異又承恩

衡山先生 文微明 其書畫 精なり
了。尤。詩。穢。異。長。たり。其。字。ハ。異。年。如。書
畫。如。花。と。い。ふ。其。體。定。を。求。む。

贖物と云はれし物をも。志願するといひ量
從ふる事。おのりけしき人何ゆへか。志
願ふがし。同くされ。先生もよく。凡そ畫は
買入る。か。手。有。侍。の家。う。賣。人。を
賣。り。け。し。か。賣。を。先。よ。り。見。は。ま。畫。售
さ。わ。だ。家。内。の。物。も。さ。わ。べ。し。畫。子。を。好
書。畫。乃。う。り。ゆ。ん。事。は。あ。く。身。志。系。に
あ。就。一。言。わ。り。で。ら。れ。し。と。え。其。家。我。か。し。て
困。窮。の。急。を。度。ふ。もの。を。り。我。一。所。の。急
を。ん。と。し。家。の。困。窮。を。う。り。し。る。に。其。心

ずし。と。り。是。と。わ。り。し。程。を。う。り。が。記。す。ハ。先。生
の。畫。を。似。せ。く。り。有。り。て。先。生。の。記。を
求。む。若。あ。り。に。す。あ。り。ら。ん。を。書。欲。を。寫
て。與。へ。し。聊。も。怒。み。あ。り。り。や。り。し。り。て。受
其。恩。切。り。て。令。活。さ。る。若。お。い。り。し。之。を。九
十。に。あ。り。ま。で。聰。明。強。健。か。し。少。壯。の。人。の。こ
を。わ。り。も。怒。ま。り。を。ん。と。老。な。ぬ。人。の。墓。徳
記。書。く。半。に。い。り。て。筆。を。擱。く。終。り。ぬ
痛。苦。も。り。く。志。怖。も。り。く。仙。家。の。尸。解。し
子。の。え。る。と。し。時。の。人。義。なり

各言ふ人しるしあり。此禮と名物となつて
後の代も物延ぶらうて。津川府の瑞雲と名
しるしあり。

黄伯思太令 知。お書後み記して曰。半袖
精祇衆を求む。お事ハあり三四夜も。数幅
新禮也尤貴し他よりよとて偶對之。

黄伯思の表昂の考

第五十三 歐陽觀碑 言不云

歐陽詢 率吏各道。如傍乃古碑を見て。誰筆
也。問之曰。素靖の書也。いふありて
馬を駐く。新事良久して。さそわゆ
事百ありて。又かつて。さたり下て。傍立
して。又事久し。疲憊なり。地をみ席
をたて。舟にたて。其下に命して
こゝろ。三言まじし。存く。帰しとや。
知法あり。むじ。如人なり。物この先なり。事
甚し。所も。今如人。たどし。すも。事と
甚し。く。事。智見に。ひつ。わて。う。なる。田舎の

山陰... 其... 又開... 通... 字... 誤...

第五十四 素師疎放醉僧園待

僧懷素。俗姓名錢。氏不詳。陸羽。懷素其傳
 在仙舟。其趣疎放。以細行。拘...
 酒を飲。性を... 草... 志を...
 其... 又... 其...
 懷素自筆。其... 狂...
 其詩曰。人送酒不... 終日...

壹世聖之天成狂便發真址画作醉僧
圖。妙帖也。董其昌跋曰云。是也。東坡
集に坡の所作を載しむ。誤りか。素師
の自筆あり。坡公見え。書きり。集を
あむ。付也。公の作也。中ひて入之。甚だ
力。宣化畫後也。懷素醉僧圖あり。是方
素師の自畫あり。坡公の詩あり。家
の字あり。世の字あり。向也。存也。
懷素自草聖と云。又自叙帖の文あり。自
負也。了。果も。集古法帖也。素師の事

三十一

三十四

乃書法記書也。有。其末に。自書して云。常
草書。但乘興而有之。殊不佳。今之二卷。可
以千竹黃金。必不深。存之。屋簷也。
有。知法也。有り。自贊也。字れ也。存常
は。と興也。素。して書ゆ。也。此佳也。か。と
云。後世の人の自愧也。似也。也。生。此類
狂。と。少。今。醉。人。水。が。さ。寸。也。僧。子
是。有。人。
懷素之零陵菴也。狂。東郊に芭蕉哉
萬殊をう。存也。取也。集。て。書。を。ま。ら。ひ。録

如経りの事ありて法として書ありと
先師に有り
又書師と事成りしから事なるも俗士
をばらるるを一術ありて却ていかに
事之何事ありてかたがた類を防邪法
ありし

第五十六 太公陰謀右軍、辭書
王猷之也。幾之於第七子也。行草也。七に父

に亞りし。父右軍都に行ふ。臨んで壁に字を
書く。出まぬ。子敬、其の宗、密に是れを拭除
く。執書て為く。自書あり。あしとやい。か
く。右軍、思ひまうて、親く嗜書し。云
我出。一時大に酒み。醉よりをん。と子敬、心み
大由。恥伏して。自悔らん。やむ。あしとやい。ん
知。懐おつ。自悔。人。皆。其。藝。ひ。ま。ん
して。心々。あしとやい。自。然。を。志。す。如。故。也
然。ん。ま。ん。わ。の。時。多。父。母。を。し。く。如。也
に。あ。り。況。事。如。世。の。凡。流。を。々。又。知。之。人

此の書は、世の書に比して、
一書も、是れ、臨、中、如、
意、を、と、ま、り、お、中、の、
を、と、ま、り、お、中、の、
を、と、ま、り、お、中、の、

第五十七 趙文敏書神速如風

趙子昂如筆中。甚神速。如風。
樞字伯機。困字。吳興子昂。如書。如風。過表。亦海。
如波。如風。如雲。子昂。篆。隸。正。行。類。草。俱。

為當代第一。小楷。又為子昂。諸書。第一。此
卷。筆力。道勁。備極。楷。則。後。之。嗜。者。豈。知
下筆。神速。如風。雨。邪。斯。又。古今。一。奇
也。至元。年。仲。十。月。七。日。鮮。于。樞。伯。機。父
記。少。者。

初。慎。於。跋。を。見。ん。と。其。中。藏。は。り。す。る。伯。機
當。時。の。人。か。ら。名。家。を。り。其。書。與。其。誰
重。り。す。事。の。如。く。又。子。昂。如。字。體。の
見。る。に。神。速。如。風。の。一。言。を。な。す。と。い。ふ。中。に
お。し。ら。す。事。也。此。跋。中。に。せ。ら。る。如。跋

しては。後世に傳へて。國學之生好む所
見て。古今の奇事。一いつたりあり
有り。と云へ人の生質。さあくなり。神後
有。運化を。しりて。師より人。育子をみら
む。くに。甚やわあ。人。まむ。わ。

後世に傳へ。古の奇事。其書。東よ。忽と
不能。茶して。楷書して。善人。まむ。之。志。も。た。
人の性。ぬ。し。も。一。極。一。極。と。い。ふ。又。後。世。
其書。東。後。世。の。傳。化。を。り。性。を。の。つ。て。達。
す。り。と。く。楷。書。を。の。つ。て。運。化。を。と。り。て。

しつる古蹟もみ

知性あり。え。其。書。を。急。就。す。め。ど。
す。み。や。あ。ら。う。わ。ま。り。わ。翻。り。楷。別。を。
極。り。し。を。注。進。ゆ。白。の。つ。て。あり。と。ん。
流。り。古。々。お。大。奇。事。あり。

第五十八 吳興寫竹典法通

趙孟頫の書。みづ。其。書。み。ひ。う。向。あ。る。
石。如。飛。白。木。如。福。寫。竹。應。須。法。通。と。り。

書畫一途の事を知るべし。

知懐云。此の如く。蔡邕の如く。輕微を字
その。搦文を。因て史籍に記す。石鼓の
文をその。書畫の法の人少く知るる
可なり。

李伯時名公麟。名畫なり。畫は極く精

心右も。畫に關鈕透入書中云々

淺安叔也。文徵明乃所遊びく。日といふ
管以搦く。書を伴ひたる。其畫筆を
以にそのなりと云。又古人は書と畫一に

均しく技を以てする。

知懐云。此の如く。畫者。畫を以て其の

或字を畫の畫なり。其の如く。其の如く。

其の如く。近代の如く。其の如く。其の如く。

其の如く。探出齋の如く。其の如く。其の如く。

其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。

其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。

古語又曰。畫石以飛白。木以籀。又云。畫竹幹如
篆。枝如草。葉如真。節如練。郭熙。唐棣。樹
葉如青。之竹。溫日觀。之蒲萄。皆自筆。以中

得東。此書與畫通也。至於書體。如鶴。以
病。不。能。應。假。波。龍。鳳。麟。龜。象。雲。鳥。鶴
物。牛。鼠。猴。雞。犬。兔。科。斗。之。屬。以。畫。與。畫
通。不。可。然。不。能。畫。沙。印。之。法。也。此。書。與。畫
一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

知。慎。好。子。畫。如。妙。之。乃。人。之。欲。之。在。此。
書。以。精。之。定。之。一。書。畫。也。一。以。此。通。之。

第五十九 蔡龍亭侯作第石印

漢和帝時。東陽の蔡倫。何。其。之。紙
を。作。り。因。り。龍。亭。侯。封。せ。り。今。
山東陽縣の山。漢和帝の蔡倫の宅と
す。其。西。の。方。に。石。印。是。昔。我。以。造。り。す。り。付
紙。印。不。り。と。云。

蔡倫。古。之。紙。を。作。り。初。く。帝。を。祀。せ。り。
又。龍。亭。を。り。何。其。之。と。云。此。乃。事
尤。繁。一。漢。一。川。

第六十 書畫裝潢見誤庸工

米元章。其藏也。王象之の真迹。米會
帖。此事をいふ。曾經人用薄帛揭畫。墨
即透數行。仍河靜地。深可數息也。
知慎云。世におほき事。將忽する人。つ
まじし。本畫の墨を透して。こころ事
有。教書ハ尤大切也。一。黃硬帛を
使ふ。遊絲者なり。明堂其むらひく
明眼あり。手好きたる。細心なる人。か
寫す。心厚。此人甚ゆる。をを器

三四十一

用紙人必細心。知此也。か。此。此。
根。つ。も。た。り。し。

又元章の真迹。王象之の真迹。桓公破羌
帖の事。をいふ。筆法入神。我衣を興く
其直を移く。買滑り。此のまの玉。庸工
小装背せり。其古跋を換。首尾冬差
志く。つ。り。か。り。痛。損。さ。し。し。

知慎云。我。國。於。書。畫。近。古。必。有。好。者。行。く
知。く。列。首。を。や。り。す。ん。難。く。也。其。を。凡
客。人。此。見。名。也。も。入。り。く。そ。の。か。く。他。の

第六十一 王祐ミチテ臥病ニキ鬼キ與ヨ赤筆アカヒツ

王祐病と臥きし。鬼あり来り。あはさず。赤筆を以て。家内の人々。是を疑ひ。て。か入せし。群神入る。凡そ事以謀り興ハカと事。皆恙ヤスうと。と。女メをとりとる。

知法云。筆を神物なり。邪神鬼ヨ。怪ヲ。屋の物なり。退筆タイヒツ。以て收ウケ。端ハタを。筆は。初より見たり。唐土より。近世キンセイ。拾シツ字ジ。傳デン。

中々。字を考ふる。紙を。筆法として。拾シツいと。供養クヨウなり。その富トク。人々。多僧タソウと。喜ヨ。いと。拾シツいと。供養クヨウと。其ソノ。切キ。法ホウ。より。て。瘰癧レイゲイを。お。れ。事コト。た。せ。し。も。又マタ。と。り。福祿壽フクリウジウを。更マシ。なり。事コト。も。お。ほ。く。見ミ。たり。と。わ。お。と。乞キ。使シ。お。拾シツ。お。す。り。り。あり。て。外ソト。人ヒト。又マタ。と。僧家ソウカ。より。も。何ナニ。事コト。と。と。風俗フウゾク。と。ト。む。取ク。也ナリ。

第六十二 王家七郎執事書辭

義之令親に于し時子敬。敬之北館の節
き白王辭の志。ゆるく海をゆくと。命をと
て。海を治し。辭め字を書たり。極く斐然
るのや。我之見て。甚味。此が書る
が中。口をわだ。七郎。知の事。中。著る。我之
ゆるく。書束を起し。き人。賜り。是を志し。七
て稱し。なり。と。か。知。なり。其。動。なり。と。
中。お。事。なり。敬。之。れ。中。字。は。官。奴。と。云。なり。
方。より。我。之。を。我。之。に。勝。ふ。なり。と。後。なり。

信三より。て。深。き。し。果。武。帝。陶。德。后。弘。業。
より。我。之。を。我。之。に。た。は。し。と。定。見。唐
の。お。宗。より。我。之。を。我。之。に。た。は。し。と。
か。ひ。く。海。一。定。なり。
強。者。を。書。信。より。我。之。に。た。は。し。と。
是。なり。

第六十三 朱雀之門。額用。助。諸。

新字の。之。字。は。公。事。なり。和。好。め。の。字。は。見



聞せり。宗大祖。趙武胤。趙芳。小門。孫へ。家も
 朱雀門の家。何て之字を用たり。昔者
 四諸の助ありし。大祖にたり。之字若之助
 侍く甚軒也。

和朝の朱雀門家。以法古師事たり。昔
 本あり。之字を余。唐持所。新也。助字
 あり。宗大祖の問り。も。又。こ。り。
 知。復。云。印。文。に。之。字。は。助。入。る。事。代。か。り。
 て。か。こ。り。之。を。入。く。三。字。を。四。字。も。か。り。
 事。も。又。之。を。入。く。か。字。を。三。字。も。か。り。

中。有。又。之。を。入。く。四。字。は。か。字。も。か。り。代。か。り。事。
 を。中。古。の。事。也。宗。大。祖。以。來。近。代。も。雙。字。
 を。古。事。に。以。り。由。り。ゆ。へ。朱。雀。之。門。と。書
 たり。如。此。一。の。時。より。以。碑。の。面。に。
 主。の。粉。面。也。之。を。入。く。單。字。も。か。り。し。事。
 あり。又。古。法。を。用。ひ。く。也。古。法。は。用。
 ひ。ぬ。も。か。り。たり。一。撮。中。以。印。も。か。
 必。之。を。入。く。雙。字。も。か。り。と。見。こ。り。今。の
 人。喜。む。之。字。を。入。る。を。深。く。考。へ。

宗大祖の事。

